

知財研修用動画教材（新人知財担当者向け）

事業・研究開発目線の企業知財

専門実務志向の事務所知財



両視点で基礎を固める教育プログラム

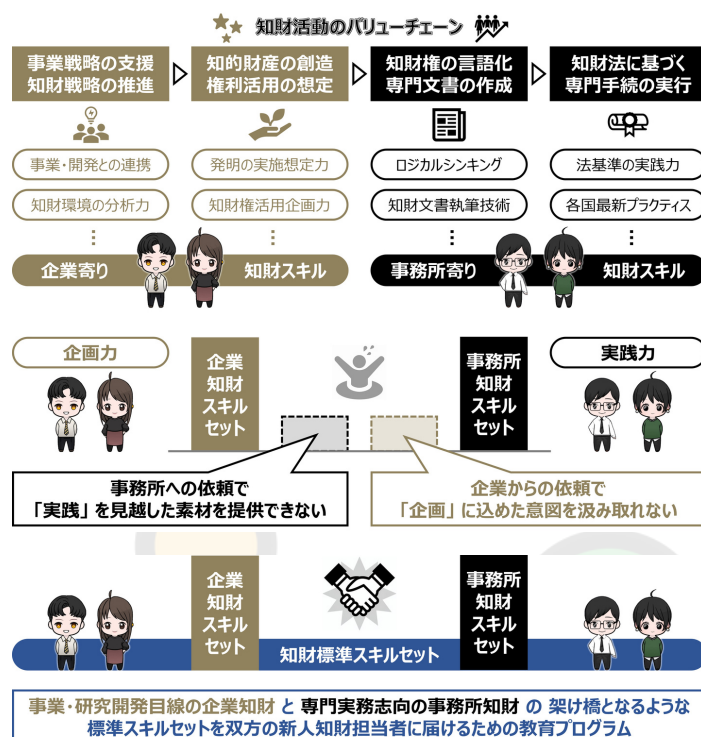


1. サービスコンセプト

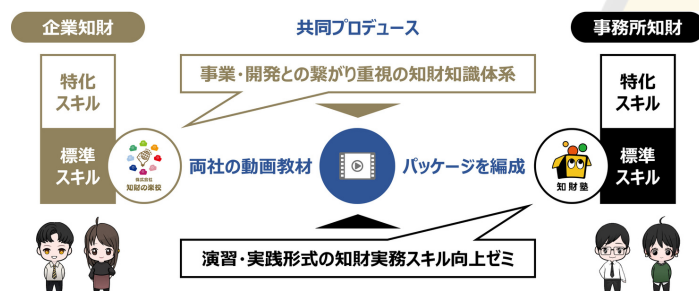
知財の専門人材は、一連の知財活動を通して、様々な価値を乗せていきます。その主軸となる流れは、①事業や研究開発に入り込み知財の観点から戦略をバックアップすること②その戦略を推進する中で生み出される知的財産について知財権の活用を想定すること③実体の無い知財を言語化して専門文書に落とし込むこと④知財の法基準に照らして専門手続を実行することです。これらが一本の大きな知財活動のバリューチェーンとなります。

各フェーズでは知財人材としての多様なスキルが求められます。例えば、事業・開発戦略を理解し連携する力、知財環境を分析し提案に結びつける力、研究開発で生まれた技術から数十年後の事業実施を想定し発明を描く力、どのような知的財産権を保有し活用していくかの企画力、それらを実現するための論理を組み上げ文章に表現するロジカルシンキングや執筆技術、最後には、法基準の実践力や各国における最新プラクティスの力が問われます。他にも必要なスキルを挙げればキリはなく、様々な知財人材が役割を担い連携していきます。一般的には、これらバリューチェーンの上流側が企業寄りの知財スキル、下流側が事務所寄りの知財スキルと言えます。それぞれを一言ずつで表現するとすれば、企業知財担当のスキルセットは企画力、事務所知財担当のスキルセットは実践力を軸に伸ばしていく事になります。一方で、知的財産職は実体無きものを取り扱う仕事であるため、コミュニケーションの質が大きく影響し、両者を完全に分業してしまうと、アウトプットの価値が著しく低下してしまいます。具体的には、企業側は事務所への依頼で「実践」を見越した素材を提供できず、事務所側は企業からの依頼で「企画」に込めた意図を汲み取ることができなくなってしまいます。

そこで提供するのが本サービスです。事業・研究開発目線の企業知財と、専門実務志向の事務所知財の、コミュニケーションの架け橋となるような標準スキルセットを双方の新人知財担当者にお届けする教育プログラムとなっております。



2. パッケージ内容



企業と事務所のそれぞれが担う知財の特化スキルは確かに存在しますが、その地盤となる標準スキルは共有していくことが望ましいと考えております。株式会社知財の楽校は事業・開発との繋がりを重視した知財知識体系の構築に取り組んでおり企業知財寄りの標準スキルを扱っております。一方で、株式会社知財塾は演習・実践形式を中心とした知財実務のスキル向上ゼミを提供しており事務所知財寄りの標準スキルを取り扱っております。両社の動画教材を持ち寄って編成したのが本パッケージです。

